古典

13 漢文・漢詩

学習目標
- 「漢文・漢詩の基本」（82〜83ページ）で身につけた知識を使って、いろいろな漢文・漢詩の読解問題を解いていこう。
- 漢文の種類や漢詩の表現技法について知ろう。

要点のまとめ

1 主な漢文の種類

思想	昔の思想家の考えを説いたもの。 例「論語」（孔子の言行録）「孟子」「荘子」「韓非子」（韓非） →教訓や思想家の考え、物事の考え方などが、文章の初めや終わりに書かれていることが多い。
史書	歴史上で起こったことを文章にまとめたもの。 例「戦国策」「史記」（司馬遷）「三国志」（陳寿） →歴史上のエピソードや人物像が、生き生きと描かれているものが多い。
漢詩	唐代に句数、音数、押韻、対句などの細かいきまりが完成された。

2 漢詩の表現技法

❶ 対句

語句や組み立てが対になる二つの句を並べ、印象を強める技法。

例 江碧鳥逾白　江は碧にして鳥は逾よ白く
　 山青花欲然　山は青くして花は然えんと欲す
　 ↔　↔　↔　↔
　 それぞれが対になっている

※律詩は、原則として第三・四句と第五・六句をそれぞれ対句にする。

❷ 押韻

決まった句末の漢字の響き（韻）をそろえる技法。

五言絶句・五言律詩	偶数句末
七言絶句・七言律詩	第一句末と偶数句末

例 春眠不覚暁　＝ギョウ（gyô）
　 処処聞啼鳥　＝チョウ（tyô）
　 夜来風雨声　＝セイ（sei）
　 花落知多少　＝ショウ（syô）

句末の漢字の音を比べると、暁・鳥・少が似ていることがわかる。

鳥・少は五言絶句の決まりによる押韻、暁は原則外の押韻。

〈孟浩然「春暁」より〉

確認問題

1 次の漢文と書き下し文と現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。

〔漢文〕
玉不レ琢不レ成レ器、人不レ学不レ知レ道。①
是故古之王者、建レ国君レ民、教学為レ先。②

〔書き下し文〕
玉は琢かざれば器を成さず、人は学ばざれば道を知らず。①
是の故に古の王者は、国を建て民に君たるに、教学を先と為す。②

〔書き下し文〕

玉琢かざれば器と成らず、人学ばざれば道を知らず。是の故に古の王者、［　　］、教学を先と為す。

〔現代語訳〕

玉は磨かなければ役に立つ器物にはならず、（同じように）人も学ばなければ道理を知ることはできない。このために昔の王は、国を打ち立てて人民の君主であるために、まず教育や学問を盛んにしたのである。

（「礼記」より）

(1)　返り点　――線①「不　知（ラ）　道（ヲ）」に、書き下し文を参考にして返り点を付けなさい。

不　知（ラ）　道（ヲ）

ポイント　「道→知→不」の順に読む。それぞれ一字ずつ返って読むので「レ点」を使う。

(2)　書き下し文　――線②「建（テ）レ　国（ヲ）　君（タルニハ）レ　民（ニ）」を書き下し文に直しなさい。

ポイント　「建」はレ点が付いているので、「国」から一字返って読む。「君」もレ点が付いているので同様にすぐ下の「民」から一字返って読む。

(3)　内容理解　昔の君主は、道理のわかる君主となるために、どういうことをしましたか。「……こと。」に続くように、十五字以内の現代語で書きなさい。

［　　］こと。

ポイント　現代語訳から、昔の王が行ったことを捉える。指定字数に注意して、「……こと。」に続くようにまとめる。

2　対句　――線①・②に対応している部分を、第二句の中から①は二字、②は三字でそれぞれ抜き出しなさい。

①千山鳥飛絶（エ）　②千山鳥飛絶え

万径人蹤滅（ス）　万径人蹤滅す

孤舟蓑笠翁（ヲウ）　孤舟蓑笠の翁

独釣寒江雪（ノ）　独り釣る寒江の雪

（柳宗元「江雪」より）

①［　　］

②［　　］

ポイント　「千山」は「多くの山々」という意味。「千」と同じように数字を表す字や、「鳥」と同じように生き物を表す言葉を捉える。

3　押韻　次の漢詩の□に当てはまる漢字を、［　　］から一つ選び、書きなさい。

渭城朝雨浥（シテ）軽塵（ヲ）

客舎青青柳色□（タリ）

勧（レ）君更尽一杯酒（ノ）

西出陽関（ヲ）無故人（カラン）

新　古　朱　明

［　　］

（王維「送元二使安西」より）

ポイント　七言絶句の漢詩では、第一句末と偶数句末で押韻する。

演習問題

■□■ 次の漢詩と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

静夜思　　李白

①牀前看月光　　牀前月光を看る
疑是地上□　　疑ふらくは是れ地上の□かと
②挙頭望③山月　　頭を挙げて山月を望み
低頭思故郷　　頭を低れて故郷を思ふ

（注）牀＝寝台。ベッド。

(1) 形式　この漢詩の形式を、漢字四字で書きなさい。

ポイント　一句（一行）が五字、全体で四句（四行）という構成になっている。

(2) 返り点　――線①「牀　前　看　月　光」に、書き下し文を参考にして返り点を付けなさい。

牀　前　看　月　光

ポイント　書き下し文では、「牀前」の後に「月光」という字を読んでいる。その後で二字上に返って「看」を読んでいるので、一・二点を使う。

(3) 押韻　漢詩の中の□に当てはまる言葉として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　星　　イ　川
ウ　霜　　エ　雨

ポイント　一句（一行）が五字の漢詩では、偶数句末を押韻する。この漢詩では第一句末も押韻している。「光」や「郷」と同じ母音をもつ漢字を選ぶ。

(4) 対句　――線②「挙頭」・③「山月」と対になっている言葉を、漢詩の中からそれぞれ二字で抜き出しなさい。

②

③

ポイント　第三句と第四句は対句になっている。どちらも「頭を○○て△△を××（する）」という構成になっている。

(5) 主題　この漢詩には作者のどのような気持ちが込められていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ふと目に入った月光の美しさに驚き、遠く離れた故郷をしみじみと思う気持ち。
イ　昼の眺めとは全く異なる夜の風景を見て自然の雄大さに圧倒され、おそれる気持ち。
ウ　故郷では見たことのないような美しい月を見て、胸がいっぱいで幸せな気持ち。
エ　月に照らされた周りの山野の美しさに気づき、新たな故郷にしたいと望む気持ち。

ポイント　第一句と第二句では、寝台から眺めた夜景の美しさを、第三句と第四句では、月を見て胸に抱く故郷への思いを詠んでいる。

実戦問題

◆◇◆　次の漢文（書き下し文）を読んで、後の問いに答えなさい。〈愛知改〉

楚の*荘王、①*詹何に問ひて曰はく、「国を治むること②奈何。」と。
（言うことには）

対へて曰はく、「何は身を治むるに明らかなれども、国を治むるに明らかならず。」と。楚王曰はく、「*寡人、*宗廟社稷を立つるを得たり。願はくは、之を守る所以を学ばん。」と。詹何対へて曰はく、「臣、未だ嘗て身治まりて国の乱るる者を聞かず。未だ嘗て身乱れて国治まる者を聞かず。故に本は［　　］に在り。敢へて対ふるに③末を以てせず。」と。楚王曰はく、「善し。」と。

（注）　荘王＝春秋時代の楚の国王。　詹何＝楚の人。
寡人＝「私」のへりくだった言い方。
宗廟社稷＝「宗廟」は代々の先祖をまつった建物、「社」は土地の神、「稷」は五穀の神のこと。君主は先祖や社稷をまつることから、ここでは国のことを指す。

〈「淮南子」より〉

(1)　返り点　――線①「詹何に問ひて曰はく」の読み方になるように、次の漢文に返り点を付けなさい。

問詹何曰

(2)　現代語訳　――線②「奈何」の現代語訳として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。　［　　］

ア　いつ攻めればよいか　　イ　誰に聞けばよいか
ウ　どうすればよいか　　エ　どこへ行けばよいか

(3)　内容理解　［　　］に当てはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。　［　　］

ア　国　　イ　身
ウ　治　　エ　乱

(4)　内容理解　――線③「末」の内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。　［　　］

ア　国を打ち立てる際に留意すべき点
イ　国が乱れている場合の対処のしかた
ウ　国がこれからどうなるかという予想
エ　国を守り治めていくための手だて

(5)　内容理解　この文章に書かれていることと内容が一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。　［　　］

ア　詹何は、楚王の問いに対してそのまま答えるかわりに、国を治めるということの本質について述べた。
イ　詹何は、楚王から繰り返し尋ねられても、国を治めるために必要な方策を一つも教えようとしなかった。
ウ　楚王は、王自らが国民の模範となって行動することを信条としていたため、詹何の答えに不満であった。
エ　楚王は、国の治め方についてわからないふりをして詹何に尋ねたところ、自分で考えるように諭された。

ポイント

(1)　すぐ前にある詹何の発言内容から考える。
(2)　(4)　「末」は「本（根本）」との対比で「末節のこと」を表している。
(5)　楚王は詹何のどういう話を聞いて「善し。」と納得したのかを読み取る。